

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	尼崎市立たじかの園		
○保護者評価実施期間	令和6年12月11日	～	令和7年1月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和6年12月11日	～	令和7年1月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 6
○訪問先施設評価実施期間	令和6年12月11日	～	令和7年1月14日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月25日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童発達支援センターとして、保育士、公認心理師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、などの各専門職員が専門性を活かし、必要により連携をしながら支援を行っている。	各専門職の専門性に関わる研修だけではなく、保育所等訪問支援をはじめとするアウトリーチに必要な知識や技術を高めるためのケース検討会や研修を実施している。	引き続き研修を実施し、保育所等訪問支援の支援の質の向上を図る。
2	保護者と懇談の時間をもち、写真等も活用して支援の様子を丁寧に伝えることや、こどもの発達や課題について共有することを大切にしている。	保護者とは実際場面の共有が難しいため、訪問先に了承を得たうえで、写真等も活用し、保護者が支援の様子を共有しやすいよう工夫している。	引き続き丁寧に保護者に支援の様子を共有する。
3	訪問先の意向を踏まえ、実際の環境に即して可能な支援を訪問先と一緒に検討し取り組むことを大切にしている。	アセスメントシートの活用や懇談をもち、訪問先の方針や実状を知るよう努めている。	引き続き訪問先と十分に連携し支援する。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	待機期間があるなど、タイムリーな支援が行いにくい。	産育休職員や支援員の兼務の状況など、体制上の調整が困難であったため。 計画相談との支援開始のタイミングの調整が不十分であったため。	体制を出来る限り整え、相談支援との連携を密に取りながら、待機人数を減らしていく。
2	保育所等訪問支援事業に即した各種マニュアル等を見直す必要がある。	当事業所の各種マニュアルに準拠してリスク管理を行っているが、より保育所等訪問支援などのアウトリーチにも即したマニュアルとなるよう見直しが必要。	マニュアルの見直しを行う。
3	保護者へのホームページ等を活用した発信方法について検討が必要。	ホームページはあるが、保育所等訪問支援に関する定期的な情報発信には活用できていない。	SNSの活用など情報発信の方法について今後検討していく。